

[PRESS RELEASE]

2025年12月17日



出生直後からの早期母子接触（Skin-to-Skin Contact）を お母さまと健康なお子さまに対して当たり前のケアに

本研究成果のポイント

- 早期母子接触（Skin-to-Skin Contact）の実施方法は、分娩施設によってさまざまな方法があり、標準的なケアとして多くの健康な母子に対して提供されていません。
- 出生直後からの早期母子接触（Skin-to-Skin Contact）が、お母さまの産後とお子さまの出生後よりよいスタートにつながるということについて、新しい指標をくわえて、コクランレビューをアップデートしました。
- 出生後1時間以内にお母さまと早期母子接触（Skin-to-Skin Contact）を実施したお子さまは、完全母乳栄養、体温の維持、血糖値の維持といった、お母さまの胎内から胎外生活に適応していく生理的な変化をスムーズに行えるなど、様々な利点があることがわかりました。
- 出生早期から中断のない早期母子接触を標準ケアとして推奨しています。

京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 母性看護学・助産学領域 教授 高橋由紀
らの研究グループは、出生直後の健康な新生児に対して出生後1時間以内に実施される早期母子接触の母子への効果について、2016年に公表された“*Immediate or early skin-to-skin contact for mothers and their healthy newborn infants*”を更新しました。本件に関する論文が、2025年10月22日付で Cochrane Library に掲載されましたのでお知らせします。

本研究は、世界各国で早期母子接触に関する研究に取り組む看護師・助産師・母乳育児支援者・産婦人科医師・新生児科医らによる共同研究チームによるもので、早期母子接触（Skin-to-Skin Contact）が、健康な新生児に対する出生後の生理的変化を促進する効果や母乳育児率向上に対する効果があることを示しました。本研究成果をもとに、今後は健康に出生した新生児に対して、出生後1時間以内に実施する早期母子接触を世界的に標準的なケアとして実施されることが期待されます。

【論文基礎情報】

掲載媒体情報	<p>掲載媒体名 Cochrane Library 発表媒体 ■ オンライン速報版 □ ペーパー発行 □ その他 掲載媒体の発行元国 イギリス オンライン閲覧 可 (URL) https://www.cochranelibrary.com/cdsr/doi/10.1002/14651858.CD003519.pub5/full 掲載日 2025年10月22日 (日本時間)</p>
論文情報	<p>論文タイトル (英・日) 英語 : Immediate or early skin-to-skin contact for mothers and their healthy newborn infants (日本語 : 母親と健康な新生児の出生直後／早期母子接触) 代表著者 Moore RE, School of Nursing, Vanderbilt University (Retired), Nashville, USA Cadwell K., The Center for Breastfeeding, Healthy Children Project, Inc., Harwich, USA 共同著者 Brimdry K, The Center for Breastfeeding, Healthy Children Project, Inc., Harwich, US, Blair A, The Center for Breastfeeding, Healthy Children Project, Inc., Harwich, USA, Jonas W, Department of Women's and Children's Health, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden, Lilliesköld A, Department of Women's and Children's Health, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden, Svensson K, , Department of Women's and Children's Health, Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden, Ahmed HA, School of Nursing, College of Health and Human Sciences, Purdue University, West Lafayette, IN, USA, Bastrache RL, Harvard Medical Faculty Physicians, OB/GYN and Midwifery, Harvard University, Plymouth, USA, Crenshaw TJ, School of Nursing, Texas Tech University Health Sciences Center, Lubbock, USA, Giugliani EJ, Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Federal University of Rio Grande do Sul, Porto Alegre, Rio Grande do Sul, Brazil, Grady EJ, School of Nursing, Curry College, Milton, USA, Zakarija-Grkovic I, Cochrane Croatia, University of Split School of Medicine, Split, Croatia, Haider R, Public Health Nutrition, Training and Assistance for Health and Nutrition Foundation (TAHN), Dhaka, Bangladesh, Hill RR., School of Nursing, University of North Carolina, Chapel Hill, USA, Kagawa NM., Department of Obstetrics & Gynecology, College of Health Sciences, Makerere University, Kampala, Uganda, Mbalinda NS., Department of Nursing, College of Health Sciences, Makerere University, Kampala, Uganda, Stevens J., School of Nursing and Midwifery, Western Sydney University, Parramatta, Australia., and 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 母性看護学・助産学領域 高橋由紀</p>
研究情報	<p>研究課題名 母乳育児を支える出生直後から切れ目ない早期母子接触実践教育プログラム構築 代表研究者 京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 母性看護学・助産学領域 高橋由紀 資金的関与 (獲得資金等) The Center for Breastfeeding, Healthy Children Project, Inc., Harwich, USA</p>

【論文概要】

1 研究分野の背景や問題点

出生直後からの母親と健康な新生児に対する早期母子接触の実施は、WHO やユニセフにより、国際的に推奨されています。しかしながら、早期母子接触の母子への効果について、開始時期や実施時間、その方法については、世界各国においても様々な見解があり、研究間の差も大きいことから、その実施および科学的検証が十分ではありません。

国際的にも、出生直後の新生児は、観察や計測のために、すぐにタオルや衣類で包まれたり（図1：関連画像）、インファンティウォーマーなどの上に寝かされ、保温効果をもとめて、母親から分離されたりすることが一般的です。出生直後の新生児は、自ら熟産生をすることが苦手なので、保温がとても重要になります。早期母子接触（Skin-to-Skin Contact）は、健康な正期産児だけでなく早産児であっても、保温効果があることが証明されています。しかしながら、早期母子接触の実践は、低・中所得国では特に一般的ではありません。

私たちメンバーはそれぞれの国で、早期母子接触の効果について研究に取り組んでおり、今回、研究グループとなって、2016年以降アップデートされていなかった“Immediate or early skin-to-skin contact for mothers and their healthy newborn infants”を更新しました。



図1. 新生児の様子

2 研究内容・成果の要点

早期母子接触の定義は、出生直後または出生後早期に、裸の新生児を母親の裸の胸に寝かせ、温められた毛布でその背中を覆い過ごすことをいいます（図2：関連画像）。

今回、アップデートされたコクランレビューでは、7,290組にのぼる母子69の研究成果を精査しました。多くの研究では、出産直後の早期母子接触は、生後10分以内に開始されていました。69研究のうち、15研究は、帝王切開分娩を対象とし、10研究は在胎34週～37週の早産児を対象としていました。32研究は高所得国、25研究は中所得国、12研究は低・中所得国（インド、ネパール、パキスタン、ベトナム、ザンビアを含む）で実施されていましたが、低所得国での研究はありませんでした。



図2. 早期母子接触

1) 新生児への効果：新生児の子宮外生活の適応を促進

- ①生後30分から2.5時間までの体温が維持されていた
- ②生後の血糖値の上昇（3研究、144人）
- ③呼吸と心拍数の安定（2研究、81人）

2) 母親への効果：

- ①早期母子接触の実施は、胎盤娩出の早さには関連がうすい（4研究、450人）
- ②経産分娩後の母体出血量への効果は判定できない（2研究、143人）

3) 母子への効果：母乳育児

- ①分娩施設を退院時から生後1か月までの母乳率が高い（12研究、1,556組）
- ②生後6週から6か月までの母乳率も高い（11研究、1,135組）

- ③今回レビューした論文において、生後1か月で完全母乳だった新生児の75%が早期母子接触をしていた

3 今後の展開と社会へのアピールポイント（図3：関連画像）



健康な新生児に対して、早期母子接触を当たり前のケアとなるように、その実施を後押しする結果を示しました。わが国では、早期母子接触の実施に際し、安全管理上の問題から形骸化したり、実施されなかつたりする施設も多くあります。その一方で、早期母子接触の効果検証には、経産分娩だけでなく、帝王切開分娩、お母さまがうける分娩時麻酔を含むさまざまな医療介入や薬剤の量的依存性が、生物学的にも、心理学的にも、生理学的にも影響します。

**図3. 元気に生まれてくる
お子さま方への約束**

研究者の皆様へ；早期母子接触研究にこれから取り組まれる研究者や実践家の皆さんには、早期母子接触の効果が明らかであることから、今後は早期母子接触の有無による無作為化試験の実施は困難となっていくことが推測されます。また、早期母子接触の評価の視点としては客観的な指標を用いた研究方法を立案することをお勧めします。

※ 本活動および掲載までの研究費用は、The Center for Breastfeeding, Healthy Children Project, Inc., Harwich, USA により支出しています。申告すべき利益相反はありません。

＜広報に關すること＞
事務局企画課 担当：増田
電話：075-251-5804
E-mail：kouhou@koto.kpu-m.ac.jp